



学校だより

きずな

【学校教育目標】 なりたい自分になる

熊野町立熊野第一小学校
令和8年9月25日
校長 梶 弘樹



気分一新の2学期です



～図書室がリニューアルしました！～

夏休みに、図書室の引っ越しを行いました。これまでの図書室は、西校舎の普通教室を2部屋使用した配置になっていて、高学年と低学年の図書室に分かれていました。もちろん、その良さもあったのですが、もっと広くて、たくさんの本が手に取れて、物語や様々な情報の集まる図書室にしたいな、もっと子供たちにとって居心地の良い空間にしたいなと考え、中校舎2階の集会室に思い切って引っ越しをしました。

本校の先生方が力を合わせ、真夏の暑さの中、汗をいっぱいかいて書架やたくさんの本を移動させました。CS本部にも呼び掛けてもらい、地域のボランティアの方にも図書の整理にご協力いただきました。ありがとうございました。

2学期になり、リニューアルした図書室は大人気です。図書室に入るなり、「うわーいっぱい本がある！」表替えをした畳の上で思い思いに本を読む子供たちからは、「あーずっとここに居たい。」との声。

先生方や地域の方、そして子供たち、みんなでリニューアルした図書室です。みんなのおかげで笑顔いっぱいの図書室になりました。



～“なりたい自分”はどんな自分？～

2学期が始まって、いつものように校門で子供たちを迎えていると、子供たちが様々な思いをもって登校してきます。地域の人や本校の子供たちが行きかう中、一人の児童が立ち止まり、地域の人にしっかり体を向けて「おはようございます！」と、大きな声で気持ちのよいあいさつをしています。



「おっ！あいさつがいいね！」と声を掛けると、「はい！学級代表なので！」と、やる気いっぱいの笑顔です。なんて素敵な前向きさだろうと感激しました。

その後、9月の児童朝会で学級代表の紹介がありました。全校児童の前で名前を呼ばれ、胸を張って返事をする姿がそこにありました。

さあ、学級代表として、どんな自分になっていくのか、どんな素敵な学級になってくのか、とっても楽しみです。

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

4月に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、その結果を今後の教育活動の改善に生かすことを目的として行われています。

この度、本校の調査結果を分析し、そこから見えてきた子供たちの学習の状況と、これまでの取組の成果、そして今後さらに伸ばしていきたい力についてまとめました。今後の授業改善や学習指導の充実につなげていきます。

教科	本校	広島県平均	全国平均
国語	70	64	60.9
算数	70	58	56.0

国語科…平均正答率は70%で、県や全国の平均を上回っています。

○文章を読み、自分の経験と結び付けて考えを書いたり、文字数や条件に気を付けて表現したりする力が身に付いてきています。

▲文章から必要な言葉を適切に引用し、それを生かして自分の考えが伝わるように書く力を伸ばしていく必要があります。

▲本文や話合いの内容を関連付けながら、目的に合った必要な情報を正しく選ぶ力を伸ばしていく必要があります。

算数科…平均正答率は70%で、県や全国の平均を大きく上回っています。

○基本的な計算や数づくり、グラフの読み取りなど、「数と計算」や「測定」の基礎的な力が身に付いてきています。

▲体積や割合など、図形や数量の意味を理解し、図や具体物を活用して学習したことを生かす力をさらに伸ばしていく必要があります。

▲問題の条件を正しく読み取り、図や言葉を使って考えを整理し、適切な式や考え方につなげる力をさらに伸ばしていく必要があります。

今後の取組

今回の調査結果から見えてきた課題の解決に向けて、全校で次の取組を進めてまいります。

① 「書く力」と「見て・触れて分かる学び」の充実

国語科：引用や推敲の学習、読書活動を充実させます。

算数科：図や具体物を活用し、数量や図形を視覚的・体感的に理解する学習を進めます。

② 基礎学力の定着とICTの活用

「算数検定」などを活用し、基礎的な知識・技能の定着を図ります。

ICTを活用し、考えを共有・説明し合う学びを進めます。

③ 学習習慣づくり

「聞く」「準備する」など、全校共通の「学習の約束」を大切にします。



児童質問調査の結果より

「全国学力・学習状況調査」の児童質問調査の結果から、本校では、休憩時間の図書館利用率（25.5%／県平均 46.5%）が低く、読解力にも課題が見られることが分かりました。また、平日のメディア利用時間が3時間以上の児童（54.9%／県平均 37.0%）が多い現状も明らかになりました。

学校ではこの夏、図書室を一つに統合・リニューアルし、子供たちにとってより魅力的で、親しみやすい環境づくりを進めています。メディアとの接し方を見直し、そこで生まれた時間を読書にもつなげていけるよう、ご家庭でも「メディアの利用ルールの再確認」や「ノーメディアタイム」の設定など、温かい声かけとご協力をお願いいたします。